



富士のさと おはなし広場と自然遊び塾

令和6年10月～令和7年1月

○趣旨

幼児期における自然体験や本に触れる体験の機会を増やし、自然のもので遊んだり、さまざまな本に触れたりすることを通して、豊かな人間性を築く基礎を培うとともに、体験活動の重要性の普及と当交流の家の周知を図る。

○実施した御殿場市内、小山町内の幼稚園（6園）・保育園（10園）・こども園（11園）

御殿場幼稚園、富士岡幼稚園、亀幼稚園、原里幼稚園、森之腰幼稚園、玉穂幼稚園、東保育園、西保育園、原里第1保育園、原里第2保育園、玉穂第1保育園、玉穂第2保育園、高根第1保育園、高根第2保育園、高根学園保育所、富岳保育園、印野こども園、神山認定こども園、すみれこども園、認定こども園ぶらんこ、高嶺の森のこども園、双葉保育園、未来こども園、きたごうこども園、するがおやまこども園、菜の花こども園、みらいこども園

○活動の流れ

1つの活動は30分間を基本とし、3つの活動をローテーションにより実施した。

（下記は基本的なタイムスケジュール、園によっては年長のみ対応。当所での森遊びは除く。）

	開始～0:30（30分間）		0:35～1:05（30分間）		1:10～1:40（30分間）
3歳児	削り華（かんなくず）を使った活動（室内）	移動（5分間）	絵本の読み聞かせ（室内）	移動（5分間）	身体を動かす活動（室外）
4歳児	身体を動かす活動（室外）		すべラップづくり（室内）		絵本の読み聞かせ（室内）
5歳児	絵本の読み聞かせ（室内）		身体を動かす活動（室外）		薪割り（室内）

○内容（活動の様子）

（1）絵本の読み聞かせ〔運営：御殿場市立図書館ボランティア、小山町立図書館ボランティア〕

図書館ボランティアが子供の興味と発達年齢に合った自然に関する内容の絵本を選定し、読み聞かせを行った。他の体験活動と内容が繋がっていたり、季節ならではのものだったりしたことで、子供たちにとって集中できる時間になった。ボランティアの絵本の持ち方、間の取り方、話し方が大変勉強になったという先生方の感想があった。



【読み聞かせ】

（2）自然のものを使った創作活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

すべての子供に「木育」について話した。「植える」「育てる」「使う」というサイクルを子供たちの実態に応じてフリップを使って話した。手入れの大切さや身の回りにある物を大切に作る心などを伝えた。3歳児の「削り華（かんなくず）を使った活動」は、長さや厚さなどが違うかんなくずを2種類用意し、五感を使って自由に触れたりダイナミックに遊んだりして木の温もりを感じた。4歳児の「すべラップづくり」は、紙やすりを使って木の表面をつるつるに磨き、最後にストラップの紐を通した。5歳児は、キンドリングクラッカーを用いた「薪割り体験」を行った。「割りにくい節のある木を割れるかどうか試すことができる時間は、体験から学べるものだった」「初めて見るキンドリングクラッカーに目をキラキラさせながらも、ドキドキしている様子が子供たちの表情から分かり、金づちの使い方に慣れてくると打ち方が力強くなり、自分で木を置く向きなどのコツをつかんでいるのが伝わってきた。自分でやることで、小さな気づきを大切にできるようになった」といった感想から、体験から学ぶ機会、「発見」「感動」のある教育プログラムの提供につながった。



【薪割り体験】



【削り華を使った活動】

(3) 身体を動かす活動〔運営：中央青少年交流の家職員〕

昨年度同様のサーキット運動に木を使った遊びを取り入れ、自然との触れ合いを感じる内容にリニューアルした。サーキット運動の前は、ACP（アクティブチャイルドプログラム）「からだじゃんけん」を導入で行った。子供たちにとって馴染みのあるじゃんけんを体全体使って行い、楽しみながら体を暖めることができた。その後、できるだけ多くの基本的な動きを取り入れたサーキット運動を行った。園にはない器具が多かったので、子供たちは興味津々で、難易度が高くなっても挑戦してやってみようという気持ちが見られた。向かい合ってボールを受け渡す動きでは、子供たち同士で相手のことを考え、投げる強さなどを調節する姿が見られるなど、思いやる心と体を使った活動になった。運動後は汗をかき、「またやりたいね」などの声がありとても楽しく体を動かしていた。



【身体を動かす活動】

(4) 森遊び〔運営：中央青少年交流の家職員〕

今年度、小山町の2園のこども園が来所し森遊びを行った。落ち葉プール、木登り、薪割り、焚火（園によっては焼き芋）、スラックライン、銀杏の葉やまつぼっくり、どんぐりなどを拾う所内散策などを行った。基本的には、職員や先生方は安全管理や活動の補助を行うだけにし、森の中で子供たちが遊びたいと思ったことを自由に行う時間にした。いつもとは違う環境でどのように遊べばいいか戸惑う子供がいたが、時間が経つにつれ、自分たちで遊びを考えたり自然物に触れたりすることで遊びの内容が深まっていった。「銀杏の葉やまつぼっくりはどこに落ちているのかな」「火は何を入ると燃えるのかな」などリアルな体験を通して、学んでいる様子が見られた。「自然にたくさん触れることができ、保育者も楽しかった」「自然の中を走る際、よろめいたり転んだりする姿があった。危険のないように管理された環境に慣れているからだろう」「園では見られない子供の姿を見ることができた。禁止することがなく、のびのびと子供たちが遊ぶ姿が見られた」などの感想があった。やはり、当所でしかできない体験をすることができる森遊びは、他の園児にも体験してもらいたい。



【森遊び】

《園からの声》

- 自分たちが使っているテーブルや床などが木で作られているということを知り、驚いている姿があり、これから大切に使ってほしいなどと思った。活動の後、「木っていろいろなことに使われているんだよね」「なくなったら困るよね」などと楽しかったこと以外に、木についても学びがあった。
- 削り華では、実際に木に触れたり香りを嗅いだりすると、「柔らかい」「堅い」「長い、短い」など、口々に感想を話した。五感を使いながら自然にたくさん触れることができ、子供たちにとっては魅力的だった。
- すべらップ作業時、「木にも匂いがあるんだ」と一人の子が言うと、周りの子も「本当だ」と気づき、良い体験ができた。
- 「サンタさんのプレゼント決まったよ。薪割るの（キンドリングクラッカー）をお願いする」と話していた。それほど楽しい体験だったのだと思った。普段できない体験を通して、木の温もりや匂いを感じ、自分の力がどこまで必要かの加減を考えながらの活動は、五感を使いながら楽しむことができた。
- 薪割りは、少しささくれた部分があるなど多少危険でも、今の子供たちにとって必要な経験の一つだと感じた。
- ダンゴムシの絵本の読み聞かせの後、「早く外に行って見つけたいな」とワクワクしている姿が見られた。散歩に出かけた際、「昨日読んでもらった本にこの葉っぱもあった」と、葉の大きさ、色など様々なことに、以前よりも着目していた。
- 読み聞かせに出てきたまつぼっくりを水に入れる、乾かす実験をその日のうちにやってみたことで子供たちの興味も高まっていて、まつぼっくりが小さくなった様子に、「本当に小さくなった」と驚いたりじっと見たりしていた。

《成果と課題》

- 森遊びを体験した園では、子供たちにとってリアルな体験から遊びを広げ、学んでいる姿があった。また、自然体験活動ができる当所の良さを感じてもらえる機会になった。
- ダイナミックにかんなくずと触れ合う活動など、園のアイデアを取り入れることで昨年度より活動に深みが出て、子供たちが遊びの中で学んでいる姿が見られた。
- 当所に来てもらい、活動（森遊び）する園を増やしたい。
- 持続可能な教育事業にするために、事業予算の確保などを検討しなければならない。